

実施要領 様式11(第13条関係)  
【認知症対応型共同生活介護用】

## 評価結果公表票

作成日 平成20年8月19日

### 【評価実施概要】

事業所番号	0272501503
法人名	株式会社東北産業
事業所名	グループホームよこはま荘
所在地	上北郡横浜町上イタヤノ木438-5 (電話) 0175-76-1255
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成20年6月26日

【情報提供票より】(平成20年6月4日事業所記入)

#### (1)組織概要

開設年月日	平成17年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	9 人	常勤 9人, 非常勤 人, 常勤換算 人	

#### (2)建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1 階建ての	1 階部分

#### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	理美容代1,500円ほか 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	800 円	

#### (4)利用者の概要( 6月4日現在 )

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.7 歳	最低	52 歳	最高	98 歳

#### (5)協力医療機関

協力医療機関名	横浜診療所
---------	-------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「傾聴・受容・支持」というホーム独自の理念を掲げている。利用者一人ひとりの生活歴や意向が十分に尊重された暮らしとなるよう、利用者の話に耳を傾けたり状態変化に目を向けるなど、常に理念を意識したケアを提供するよう心がけている。

開設から年数が経つにつれ、地域との交流が徐々に増えてきており、ボランティアを積極的に受け入れるなど、近隣との良好な関係が築かれている。

栄養士の資格を持った職員を配置しており、栄養バランスやカロリー等に配慮された献立を作成している。また、献立には利用者の好みを取り入れたり、畑で採れた収穫物を食材として取り入れるなど、食事を楽しめるような工夫を行っている。食事や水分の摂取量を記録したり、准看護師の資格を持った職員を配置していつでも医療面に関して相談できる体制を整えるなど、利用者の健康管理に努めている。

年2回、消防署の協力を得ながら昼夜を想定した避難訓練を実施するほか、災害時に備えて派出所からの協力体制を整えたり、食料品等の備蓄品を用意するなどの取り組みを行っている。

### 【特に改善が求められる点】

全職員が力量等に応じた研修を平均的に受講できるよう、内部・外部研修の年間計画を作成することに期待したい。計画には地域福祉権利擁護事業や成年後見制度に関するテーマも盛り込んではどうか。

身体拘束は絶対に行わないことをモットーとし、やむを得ない場合は家族に説明して同意を得る体制となっているが、拘束の理由や方法、期間、経過等を記録する様式を整備してはどうか。

介護計画の実施期間が6ヶ月となっているが、実際には1年の見直しとなっており、状態変化等に応じた随時の見直しも行われていないので、現状に即したケアを提供するためにも、実施期間に応じた見直しや随時の見直しを行ってはどうか。

重度化や終末期のケアには可能な限り対応することとなっているが、指針が定められていないので、明文化した上で利用者や家族、医療機関等との話し合いを行うことに期待したい。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果を基に改善点等について全職員で話し合う機会を持っており、できることから実践するなど、より良いサービスの提供に向けて取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は勉強会等を通じて評価の意義を全職員に周知している。職員は評価のねらいや活用方法などについて概ね理解しており、自己評価実施時は管理者と職員が一緒に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>行政担当課職員や地域代表者、利用者、利用者家族代表などが運営推進会議に参画しており、会議は2ヶ月に1回開催している。会議ではホームの状況や行事予定、評価結果等を報告しており、委員の意見や要望を引き出すよう働きかけを行っている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>月1回のホーム便りや面会時等に暮らしぶりや健康状態、職員の異動、金銭管理状況等を家族に報告している。また、玄関掲示板にホーム内外の苦情受付窓口を明示したり、意見箱を設置するほか、運営推進会議に家族代表者に参加してもらう等、家族が意見や要望等を話しやすい雰囲気を作っている。家族から意見等が出された時は今後のケアに反映させる仕組みとなっている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ボランティアの受け入れや体験入居などに関する情報を掲載した広報紙を地域に配布している。定期的な読み聞かせのボランティアや、園児や中・高生のボランティア、行事の際の地域からのボランティア等を積極的に受け入れており、地域に開かれたホームとなっている。また、ホーム行事への参加協力を呼びかけたり、地域の行事に積極的に参加する等、地域との良好な関係が築かれている。</p>
重点項目④	<p>ボランティアの受け入れや体験入居などに関する情報を掲載した広報紙を地域に配布している。定期的な読み聞かせのボランティアや、園児や中・高生のボランティア、行事の際の地域からのボランティア等を積極的に受け入れており、地域に開かれたホームとなっている。また、ホーム行事への参加協力を呼びかけたり、地域の行事に積極的に参加する等、地域との良好な関係が築かれている。</p>

## 【各領域の取組状況】

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>管理者及び全職員はホームの理念を理解しており、利用者の声に耳を傾け、一人ひとりの思いを汲み取ったサービスを提供できるよう努めている。</p> <p>月1回の内部研修では認知症ケアや感染症などに関する課題について理解を深め、職員の資質向上を図っている。また、法人内の他事業所との交流を図り、得られた気づき等を今後のケアにつなげている。</p> <p>職員異動等の際に利用者への影響が少ないよう、職員が日頃からユニット間を行き来したり、異動時に利用者への説明を行うなどの対応を行っている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>入居前に事前訪問を行い、利用者や家族の希望等について話し合いを行っている。また、見学や体験入居等も行っており、利用者が安心して入居できるよう支援している。</p> <p>職員は日々の関わりを通して利用者一人ひとりの気持ちを理解するよう努めている。また、畑仕事や食事の支度、洗濯物の整理などは一緒に行う等、利用者職員が共に支えあい、共同しながら生活している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>生活歴や日々の関わり、家族からの情報等を通して一人ひとりの趣味歴や意向、状況等を把握しており、職員間で話し合った上で介護計画を作成している。</p> <p>入居前からのかかりつけ医での受診を支援し、利用者や家族の安心感につなげるほか、町内の診療所や歯科を協力医療機関として確保するなど、緊急時等にいつでも対応できる体制を整えている。また、受診結果は面会時等に家族に報告し、情報の共有を図っている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>利用者一人ひとりのペースや体調を第一に考えて日々のケアを提供するほか、介助時には個々の尊厳や羞恥心等に配慮するよう心がけている。</p> <p>栄養士の資格を持った職員が献立を作成しており、利用者の好みや旬の食材、畑の収穫物などをメニューに取り入れている。また、食事の準備を一緒に行うなど、食事を楽めるような工夫を行っている。</p> <p>共有空間に木目調の家具やソファを設置したり、畳を敷くなど、家庭的な温かい雰囲気作りを行っている。また、壁には利用者職員が一緒に手作りした季節感のある作品を飾るなどの取り組みも</p>

# 評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「傾聴・受容・支持」というホーム独自の理念を掲げている。管理者及び職員は地域密着型サービスび役割を理解しているが、理念に反映させるまでには至っていない。	○	定期的な勉強会の場を利用するなど、現在の理念に地域密着型サービスの役割を盛り込んでいく取り組みに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、職員採用時及び月1回の勉強会で、職員に理念の周知徹底を図っている。また、玄関などの目につく場所に理念を掲示しており、職員は利用者の話を傾聴するなど、利用者が充実した日々を送れるよう心がけている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	2ヶ月に1回発行している広報紙を派出所や商店などに手渡ししたり、外出の際には声がけするなど、近隣へのホームの理解や周知を図っている。また、ホーム行事への参加協力を得たり、地域の行事に積極的に参加するなどの交流が図られている。月1回の読み聞かせボランティアのほか、幼稚園や中学校、高校等の友愛訪問やボランティアなどを受け入れている。また、行事の際には地域住民のボランティアも積極的に受け入れている。外部の人を受け入れる時は事前に利用者のプライバシー保護について説明するなどの対応を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を理解しており、勉強会などで職員への周知を図っている。職員は評価のねらいや活用方法等を概ね理解しており、自己評価作成時には全職員で取り組んでいる。外部評価結果が出た後は、管理者及び全職員で改善点などについて話し合っ実践するなどの取り組みを行っている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催しており、行事予定や現状などについて説明している。また、評価結果や改善策についても報告しており、メンバーの意見を引き出すよう、会議の持ち方に配慮している。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政にホーム便りを配布したり、運営推進会議に行政担当者に参加してもらうなど、定期的に情報提供を行っている。また、管理者が町の認定調査員を務めており、行政担当課との情報交換を密に行い、連携を図りながら課題解決に取り組んでいる。また、評価結果を提出し、ホームの取り組み等を報告している。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見制度や地域福祉権利擁護事業について理解しており、内部研修で職員への周知を図っているが、職員の異動が多いこともあり、全職員が制度の概要を理解するまでには至っていない。	○	外部研修に職員を派遣したり、内部研修のテーマとして繰り返し取り上げるなどの取り組みを行い、全職員が制度の概要を理解するとともに、利用開始に向けた支援を行える体制を作ることに期待したい。
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加するなど、虐待の内容等を理解し、虐待は絶対に行わないということを念頭に置いて日々のケアサービスを提供している。言葉の虐待にも留意しており、管理者が職員のケア提供場面を観察するなど、虐待を未然に防ぐよう努めている。また、虐待を発見した場合は第一に管理者に報告することとなっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前訪問を行うなど、重要事項説明書を基にホームでの生活等について説明し、利用者及び家族の希望等を聞いている。また、契約改訂時にも随時説明を行って同意を得、署名捺印をもらっている。退居時には説明を行うとともに退居先への情報提供を行うなど、利用者や家族に不安を与えないよう支援している。		
10	12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回広報紙を配布して暮らしぶり等を伝えるほか、健康状態や受診状況についても報告している。また、状況変化や職員の異動がある場合は随時連絡している。金銭管理に関しては出納帳に記録しており、月1回出納帳の写しに領収書を添えて家族に報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族代表者が参加しており、積極的に意見を出してもらうよう働きかけている。また、面会時に声がけしたり、玄関に意見箱を設置するなど、家族が要望等を気軽に出せる環境作りを行っている。重要事項説明書や玄関にはホーム内外の苦情受付窓口を明示しており、意見等が出された時は今後のケアに反映させる仕組みとなっている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動の際に利用者への影響が少ないよう、職員は日常的にユニット間を行き来している。新しい職員を採用したり配置換え等を行う時は、利用者へ説明するとともに職員間での引継ぎを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務上の悩みには法人本部や管理者が助言する体制となっている。月1回の勉強会で認知症に関するテーマを取り上げるなど、職員のスキルアップを図っている。また、外部研修の開催案内を全職員の目に付く場所に置いて周知を図り、希望を基に研修に派遣している。研修後は復命書を提出し、勉強会で他の職員に報告しているが、年間の研修計画を作成するまでには至っていない。	○	全職員が経験等に応じた外部研修を平均的に受講できるよう、年間の研修計画を作成してはどうか。
14	18	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回法人本部の会議に管理者が出席しており、情報交換で得られたことを勉強会で全職員に周知している。また、法人内の他ホームとの交流を図っており、得られた気づき等を日々のケアに反映させ、サービスの質の向上に努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始にあたり、見学や日帰り、一日体験入居等を実施しており、実際に体験することでホームの雰囲気を感じてもらっている。また、事前訪問や聞き取りなどを通じて利用者及び家族の希望や要望を把握するなど、なるべく早くホームに馴染めるような支援を行っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者とのコミュニケーションが大切であることを認識しており、一人ひとりの話に耳を傾け、思いを汲み取るよう努めている。また、畑仕事や食事の支度、後片付け、洗濯物の整理などは一緒に行う等、利用者職員が共に支え合い、共同しながら生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりや会話から、食事や趣味などの生活全般における一人ひとりの希望や意向を把握するよう努めている。また、入居時や面会時には、生活歴などに関する情報を家族から収集している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	できること・できないことシートを基に職員間で話し合いを行うほか、利用者との日々の関わりや家族からの情報を基に個々の希望や意向を把握し、介護計画作成時に反映させている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直し時には、日々の観察や会話、家族との話し合いから一人ひとりの状態や意向等の変化を把握するなど、再アセスメントを行っている。基本的には6か月に1回の見直しを行うこととなっているが、実際には年1回の見直しとなっており、状態変化等に応じた随時の見直しも行われていない。	○	6か月という期間を設定し、詳細な目標を立てているので、実施期間終了後には見直しを行うことに期待したい。また、状態や希望等に変化がある時は随時の見直しを行ってはどうか。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外泊や日帰り旅行、希望する理美容院等への外出支援を行うほか、鍋祭りなどの行事を実施する等、利用者や家族の要望に柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望を聞き、入居前からのかかりつけ医を継続して受診できるよう支援している。町内の診療所や歯科医院を協力医療機関として確保しており、緊急時や健康診断等、いつでも対応できる体制となっている。また、准看護師の資格を持っている職員を配置しており、職員間で気軽に相談することができる。受診結果は面会時等に家族に報告し、情報の共有を図っている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアについては、家族や医師等と話し合いを行い、可能な限り対応することとなっている。しかし、その方針を指針として明文化するまでには至っていない。	○	重度化や終末期に関する指針を整備し、それを基に利用者や家族、医療機関等との話し合いを行っていくことに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳や羞恥心に配慮しており、一人ひとりの声に耳を傾けたり、介助時には他の利用者に聞こえないようさりげなく声がけするなどの対応を行っている。また、職員は個人情報保護法について理解しており、個人台帳等は訪問者の目に触れないよう扉の中に保管するなどの配慮を行っている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースやその日の体調等に合わせ、起床時間や食事時間など、利用者の行動を急かすことなく支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には利用者の好みや畑で取れた収穫物を取り入れている。また、利用者に盛り付けや下準備を手伝ってもらったり、職員も利用者と同じ席に着き、会話を楽しみながらさりげなく食べこぼし等へのサポートを行うなど、和やかな食事となるよう支援している。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回を目安に支援しており、時間帯や入浴日などは利用者の希望に合わせている。入浴を拒否する利用者に対しては、声がけする職員や時間帯を変えて促したり、足浴を実施するなどの工夫を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や力量等を把握しており、食事の準備や洗濯物の整理、畑仕事、編み物など、個々に応じた役割や楽しみごとを促している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や買い物に出かけるほか、外食や地域の行事等に出かけている。また、畑仕事を手伝ってもらうなど、積極的に外に出る機会を作っている。外出時は個々の体調や天候等に十分留意し、適切な移動方法を選ぶなどの対応を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議や勉強会を通じて全職員が身体拘束の内容等について理解を深め、拘束は絶対に行わないという方針で日々のケアを提供している。やむを得ず拘束を行わなければならない場合は家族の同意を得ることとなっているが、理由等を記録する様式を整備するまでには至っていない。	○	やむを得ず拘束を行わなければならない場合に備え、拘束の理由や期間、方法、経過等を記録する様式を整備することに期待したい。
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関やユニット出入り口を施錠していない。利用者の外出傾向を察知できるよう玄関にチャイムを設置しており、察知した時は見守りや付き添う等の支援を行っている。また、無断外出時に近隣からの協力が得られるよう、定期的に派出所に広報紙を配布したり、声がけするなどの働きかけを行っている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力を得ながら昼夜を想定した避難訓練を実施している。災害時に適切に対応できるよう、年1回救急法の講習会を開催したり、AEDを設置する等の取り組みを行っている。また、災害時に備えて緊急連絡網を整備したり、派出所等からの協力体制を整えるほか、食料品等の備蓄品を用意している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の資格を持った職員が栄養バランスやカロリー等に配慮した献立を作成している。また、一日の水分は1500mlを目安として提供しており、食事や水分の摂取量を記録している。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対応マニュアルが作成されており、法人本部からの情報提供等があった時は随時の見直しを行っている。また、月1回の勉強会の際には、看護師の資格を持った職員から感染症に関する助言や指導を受け、理解を深めている。感染症に関する情報は家族にも提供している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には木目調の家具を設置するほか、リビングの一部に畳を敷くなど、家庭的な雰囲気となっている。また、壁や天井には利用者と職員が一緒に制作した季節の飾り付けを施している。テレビ等の音量やホーム内の明るさも適切であり、快適な空間である。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前や面会時には、馴染みの物の持ち込みを家族に依頼している。また、利用者の希望により居室前に表札を付けるなど、一人ひとりが生活しやすい居室作りが行われている。		

※  は、重点項目。